

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
ホームページアドレス
<http://matsukyouikukai.main.jp/>
発行者 清水昇
編集 調査研究部

共に学び、共に育つ



副会長
友近 裕 識



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編
松山市立子規記念博物館 監修

会員の皆様におかれましては、御健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、今年度の松山市教育会は、「組織の活性化」「広報活動の充実」「学校教育活動への協力と支援」の3つを重点的に取り組んでいます。その中で、新学習指導要領にあるプログラミング教育に関する講座を新しく開設し、OBの講師の先生と共に9名の先生方が熱心に学び続けています。

その受講生の中に、「私は、パソコンが苦手なので、この講座を受講することに決めました。」と言われた先生がいます。苦手だからこそ、来年度の新学習指導要領完全実施に向けて、「しっかりと準備をしていきたい。」という強い意気込みや自分事として捉えて行動に移そうとしている姿がありました。最初は、なかなか受講内容の理解をすることが難しく、学習やパソコンの操作についていくことがやっとということでした。受講回数を重ねていくたびに、少しずつ自信をもち、楽しくなってきたそうです。その自信にあふれた表情から、自己肯定感が高まり、確実にスキルを身に付けていっていることが分かりました。また、講師の先生と受講生の気持ちが一つになり、課題解決に向けて楽しく努力し合っている様子が目に浮かびます。このように、松山市教育会は、現職教職員と退職教職員が集い、経験豊かなOBの皆様から学ぶ場、そして共に学ぶ場となっています。

学校教育を振り返ってみますと、地域の方々や関係諸機関との連携の大切さを強く感じています。改めて、学校だけで子どもたちの力が付くものではないと実感しています。保護者の皆様や地域の皆様の協力を得、ともに汗する営みをとおして絆を深め、学校の風土として根づくものであると思います。

松山市教育会がこれまで取り組んできたことを受け継ぎ、子どもたちの育ちに積極的に関わることで、「松山の教育」に役に立てるように努めていきます。また、関係の皆様との連携を図り、絆を深めながら、ますます松山市教育会の組織の活動が、充実したものになっていくように、「ワンチーム」で進んでまいります。今後どうぞよろしくお願い致します。

令和元年度報賞者

松山市教育会



(八坂支部)
青野 郁恵 先生
副会長・支部長



(椿支部)
藤岡 敬二 先生
支部長



(中島支部)
金子 房江 先生
支部長



(堀江支部)
砂田 孝夫 先生
理事・事務局長



(素鷲支部)
池田 尊之 先生
理事・事務局長



(桑原支部)
山中 茂明 先生
事務局長



(湯山支部)
日野 利亮 先生
事務局長



(湯山支部)
栗本 信吉 先生
事務局長



(東谷小)
松本 祐子 先生
事務局長



(浅海小)
芳野 妙美 先生
事務局長

「えひめ教育の日」記念事業

「まつやま教育フォーラム2019」高齢慶祝者(白寿・傘寿)名簿

	氏名	支部		氏名	支部
白寿	塩崎 薫 樹 様	余土	傘寿	鈴木 武 夫 様	石井東
傘寿	澤崎 由美子 様	味酒	傘寿	岡田 武 久 様	石井東
傘寿	落合 常 章 様	東雲	傘寿	宮内 正 芳 様	石井東
傘寿	友岡 宏 次 様	素鷺	傘寿	楠本 廣 美 様	石井東
傘寿	三浦 正 道 様	堀江	傘寿	渡部 大 輔 様	石井東
傘寿	小池 東三郎 様	久枝	傘寿	本田 舜 子 様	さくら
傘寿	兼久 敦 子 様	余土	傘寿	立町 邦 雄 様	正岡
傘寿	光宗 賢 二 様	石井	傘寿	乗松 幸 平 様	粟井
傘寿	三木 邇 様	たちばな			

思い出の学校

寮のある学校

友岡 宏次 (素鷲支部)

私の思い出の学校は、上浮穴郡柳谷村立柳谷中学校です。柳谷村は、高知県と接する山村です。私が赴任したのは、昭和42年4月でした。学校は二階建ての本館と三階建ての校舎があり、鉄筋コンクリート建ての立派なものでした。全校生徒は約400人、1年生は3クラス、2、3年生は4クラスの編成となっており、私は2年生の受け持ちになりました。柳谷中学校がなぜ心に残っているのかというと、それは寮があったからです。柳谷村には、中津中学校、柳井川中学校、西谷中学校の3つの中学校がありましたが、村が「規模の適正化、教育効果の向上を図る」を理想として、3つの中学校を統合して、新しく柳谷中学校を造りました。その結果、中津中学校、西谷中学校の生徒は学校が遠くて、毎日、家から学校に通えないので、寮を造ったそうです。寮の舎監は学校の先生が当たっていました。私にも学校に慣れた2年目に舎監の順番が回ってきました。寮は1階が男子、2階は女子が入っていました。寮生は約100人、朝は6時起床、7時朝食、その後登校、夜は18時夕食、22時消灯でした。私の舎監のときの出来事を1つ紹介します。舎監は夜22時30分くらいから見回りをし、23時に就寝。6回目くらいのときです。見回りも終わり、23時に寝て、30分くらい経ったと思われる頃、ドーン、ドーンという凄い物音で目が覚めました。1部屋には2段ベットが4つ、8人が入っており、明らかに生徒が2段ベットの上から飛び降りて、こちらをからかっているのです。このやろうと思ひ、階段を駆け上がって、舎監の上の部屋に行き、「やかましい、夜中に何やとんのか。」と怒鳴ると、生徒の一人がわざと寝ぼけ声で、「どうしたんですか。」と言ひ、更に「男の先生が夜中に女生徒の部屋に入ったらいくまい。」と言うのです。人をからかひやがってと思ひながら、「静かに早く寝ろ。」と言って舎監の部屋に戻って、寝ながら、ふと、夏目漱石の小説、坊ちゃんのバツタ事件を思い出しました。また、夏休み前の晩の行事、肝試しも懐かしく思い出されます。

新任校での思い出

小池 東三郎 (久枝支部)

昭和37年4月に上浮穴郡柳谷村立柳谷中学校中津分室に赴任した。ここでの生活や体験には、楽しい思い出がたくさんある。その一部を紹介したい。

当校は、各学年1クラス、生徒数124名、教員数6名(分室長1名他5名)だった。1年生の学級担任で、教科の担当は技術・家庭科・理科・体育だった。技術・家庭科は、職業科から変わった年であったため、ベテランの先生方も新採と同じように教材研究をしていると聞いた。先輩の先生方には、親切にいただき、その上お世話になった。無免許の理科や体育の授業では困ったことも多々あった。生徒の質問に答えられないこともあった。それでも生徒たちは素直に授業を受けてくれ、生徒に申し訳ないと思う反面、懐かしい思い出となっている。

体育担当として、陸上競技やバレーボールの大会にも参加した。私の不十分な指導や指示にもかかわらず、生徒たちはよく頑張ってくれた。柳谷村を代表して郡大会に参加し、陸上競技では5種目入賞し、バレーボールは準優勝だった。帰りのバスの中で子どもたちにお礼を言われた時は、うれしく、教師になってよかったとしみじみ感じたものである。

中津地区は、高知県に接する山間地にある。この年は大雪で38(さんばち)豪雪と言っていた。松山高知間の国鉄バスが40日間止まった。学校も臨時休校になった。柳谷中学校から電話連絡があり、それを中津の各地区に電話連絡した。その後の電話連絡もあり、学校を出られず、一人で数日間日直を続けたときは、若くもあり苦しいものであった。

定期バスが止まると生活が大変である。食料の買い出しができずに困っていると、先輩の先生に「食事に来なさい。」と誘われ、ご馳走になったこともある。

このように助けられ、支えられたお陰で、今の私があると思っている。

学校だより「かけはし」への思い

鈴木 武夫 (石井東支部)

昭和38年4月に旧小田町立平野小学校へ赴任して、平成12年3月石井小で退職するまで8校勤めた。よき先輩や優秀な後輩、優しい子どもたちや地域の方々に支えられ、楽しく職務を全うすることができた。今思い返すとどの学校も心に残る思い出の学校である。

石井小学校には平成9年4月から、平成12年3月まで勤めた。ある会合で保護者の強い要望があり、私も学校からの情報発信の必要性を感じていたので、早速学校だよりを出すことにした。名称を教務主任の発案で「かけはし」として、B4用紙4段区切りにして私の考えを述べ、余白を教務主任が埋めることでスタートした。「こんな子ども・学校に」と題して私の考えを述べた。それ以降2週間に1回くらいで発行した。

ある回から余白の部分に金子みすゞの詩を載せた。これが子どもたちに好評で、いろいろな詩を載せることでそれ以降は、私がすべてを書き上げ、教務主任には添削と印刷を頼み、通算60号まで出すことができた。

退職間近になって、保護者にアンケートを求めた。たくさんの返信があり、よく読んでもらっていることが分かった。「いつもありがとうございます。毎回楽しみにしています。共感することが多く、大切に綴じています。」など好評だった。

その中に、教職員の感想も入っていた。「家に持ち帰らす前に、必ず子どもたちと読み、校長先生の思い、親や私自身の願いなどを話し合わせておりました。子どもたちの心だけでなく、私自身の心にも染み入る温かい文章で大変参考になりました。……」

製本が趣味だという職員が、製本をしてくれ、今手元にある。その手紙には、「お預かりしていた『かけはし』の製本ができ上がりました。校長先生の温かいお気持ちのあふれた『かけはし』を毎回読ませていただいて、もちろん教師として、また一人の親として、そして人間としての生き方そのものを教えていただきました。感謝の気持ちで製本させていただきました。ありがとうございました。」と書いてあった。

今、私は、それを手にし、よき職員に恵まれ楽しく過ごしたことに感謝しながら、懐かしく思い出している。

道徳教育に力を注いだ宮前小学校

乗松 幸平 (北条支部)

昭和44年(教員生活8年目)4月1日、松山市立宮前小学校教諭に補する、という辞令をいただいた。早速、学校を訪ねた。当時、教務主任をしておられた宮下綱男先生と面談する。学担や校務分掌のことについて話し合った。図工主任か道徳主任かどちらかを受けてもらいたいとのことで、気軽に道徳主任をお願いした。これが、後に、大変なことになるのである。運命の出会いとはこういうことかと今になって思う。

この年度、5年生担任と道徳主任を拝命する。5月連休明けに、山田哲校長先生に呼ばれ、「乗松君、巡回して先生方の授業を見たが、道徳の授業らしい授業をどの先生もしていない。道徳主任が範となる授業を公開しなさい。」と言われた。私は、軽い気持ちで道徳主任を受けたのであって、先生方の模範授業などこの段階でできるはずない。困った。悩んだが、後の祭りである。が、授業研究の素材を提供する気持ちで公開した。校長先生からは、厳しい指導を受けた。

山田校長先生は、八幡浜市立天神小学校から、地元の宮前小学校に栄転された。長年にわたり道徳教育に打ち込んでこられた道徳教育の大家である。

翌年から、市・町の道徳教育推進指定校となり、道徳教育が本校の研修の中核となる体制が組まれた。極め付きは、昭和47年7月12日、西日本地区道徳教育指導者講習会が本校で開催されることになったことである。各府県で道徳教育の指導に当たられている指導主事の先生方の研修会である。本校の公開授業を素材にして、道徳授業の在り方を話し合うという。その授業の大役が私に与えられた。当日は、文部省教科調査官の青木考頼先生・井沢純先生をはじめ、道徳教育に指導的な立場におられる先生方が、県内外から200名余り来られた。

私も38年間の長きにわたって教員生活を送ったが、文部省の教科調査官の先生に授業を参観してもらい指導を受けたのは、これが初めてであり最後であった。

宮前小学校、在職7年間、道徳教育の研修の場と機会を多く与えられ、私なりに励んだ、正に教師として充実期であった。

えひめ教育の日 記念事業

まつやま教育フォーラム 2019 講演会 R元.11.8(土) 文教会館にて

『自閉症 それがどうした!』～変わることを恐れずに今こそチャレンジ!～

講師 ラジオパーソナリティ 濱田 斉子 氏
濱田 晋太郎 氏

今日、皆さんに伝えたいこと、それはチャレンジです。

息子が就職してお給料を貰うなんて、誰も想像できませんでした。でも、子どもって、大人になるんです。そして社会も当然変わってきています。みんなと同じでなければならないと言っていた社会から、今では多様性の時代、国民全体で共生社会を目指しています。教育の世界でも、特殊教育から特別支援教育に変わって10年以上経ちました。個に応じた指導の充実が言われています。そんな大きな変化が起きている現在、私たち自身が変わっていかなければならないと思っています。



【1歳半検診～保育園】

結婚して子どもを授かって、ごく平凡な家庭を築いていくものだろうと思っていました。しかし、子どもの1歳半の検診で衝撃を受けました。よその子はお母さんのそばでじっと座っています。名前を呼ばれたら返事をしている。うちの子は晋太郎と名前を呼んでも振り向かない。走り回って全然じっとしていない。まさか障がいがあるなんて思ってもみませんでした。

3歳ではっきりと自閉症と診断されて、児童発達支援センターくるみ園に入園しました。そこの生活は居心地がよかったです。5歳になった頃、この子は一生障がいを背負っていく、だったら通常の子どもたちと触れ合うのは今しかない。色々な問題が起こるだろうけどこれもチャレンジだと、覚悟を決めて通常の保育園に行きました。

しかし保育園ではみんなと同じことができずに、それは大変でした。運動会では一人で隅っこに座り込んでいました。お遊戯会でも友達の邪魔をしています。しかし、保育園の園児たちは息子を邪魔者扱いしませんでした。自分たちで考え、出来ないことをみんなで助け合う自然な姿。思いやりの心が、その小さな共生社会には育っていました。小さい子どもには偏見がありません。

そのうち、自閉症や発達障がいなどどうでもいいと思えるようになりました。自閉症を特性と捉えるようになった途端に、私と息子の世界はどんどん広がっていきました。水たまりの中でも、汚れても気にせずとことん飽きるまで好きにさせていました。このころの息子の言葉は、オウム返しでした。しかし、4歳の時に、初めて意味のある言葉を発したんです。「ママ」でも「パパ」でもなく、自分の言葉で「ヒコーキ」と言ったんです。

【小学校～高校】

小学校では、特別支援学級を希望。潮見小学校やまぶき学級に行くことにしました。当時は校区内が条件でしたので、覚悟を決めて2月に転居。私とやまぶき学級担任の須之内先生の二人は、恐れを知らないチャレンジャーでした。学校外で先生を見つけるとパニックになる息子に対し、大好

きな飛行場で先生にばったり会ったらどうなるか、県外（大好きな岡山のチボリ公園）で先生にばったり会ったらどうなるか、そんなチャレンジを担当の須之内先生と一緒にしました。

須之内先生のことが大好きな息子は「須之内先生が〇〇してって言ってたよ。」という先生に認められたくて、それに応えられるように頑張っていました。

先生が、電話に関する宿題を出してくれたお蔭で、電話の音にもなれ電話に出られようになりました。

包丁や電動ドリルもどんどん使って遊ばせました。怪我をしたら、自分で対応（手当て）できるようになるチャンスと捉えました。小さいころシーツ遊びで鍛えた体幹があればできると信じて、体操教室に通い1年後にはバク転ができるようになり、息子の自己肯定感につながるきっかけとなりました。バスや電車に乗る練習をして6年生の時には、乗り継いでおじいちゃんの入院する病院に一人でお見舞いに行くこともできました。

障がいをもつ児童は、チャレンジする機会が極端に少なく、周りの大人がしてしまいがちです。できないのは子どものせいではありません。周りが工夫していないから出来ないのです。

中学校では、剣道部に入りました。心配していたいじめがあり、部員や保護者に息子の特性を書いた手紙を渡しました。状況を説明できない息子でしたが、校長先生が声を掛け守ってくれました。高校では、福祉に興味をもち、生徒会長もつとめました。

【高校卒業後～現在】

高校卒業後、老人介護施設に就職しましたが、うまくいかず注意を受けたり、人間関係で悩んだりもしました。介護初任者研修の際は、自分には知的障がいがあり自閉症であるとカミングアウトしたそうです。仲間が助けてくれ、研修は無事終了しました。しかし、周囲が理解してくれていた学生時代と違い、努力しても職場での人間関係はうまくいきません。「どうして僕はできないんだろう。どうして僕ばかり注意されるんだろう」。悩んだ末に、いったん一般就労から離れました。障がい福祉サービスを利用し、就労支援でしばらく働いた後、徐々に自信を取り戻していきました。再び老人介護施設に一般就職し、順調に数ヶ月が過ぎました。

そんな時、ANAが障がい者雇用をするという情報を得ました。松山空港までは自転車で片道40分。原付きの免許も取りました。就職して1か月。カウンターの端末を勝手に触ったことがありました。「触ってはいけない」とは言われていなかった。これが障がいの特性です。本人に悪気はありません。当たり前のことが分かりにくいのです。しかしある時、検査後の荷物に違う航空会社のタグが付いていることに気づき、会社より感謝状をもらいました。これも息子の特性です。

息子はプライベートも大変充実しており毎日を生き生きと過ごしています。

そんな息子の子育てをしてきた私がチャレンジしてきたことを6つにまとめました。

チャレンジ	①様々な遊び・経験を楽しむ、②自分のことは自分で、③規則正しい生活と体力 ④人と繋がりをつくる、⑤自己肯定感を高める、⑥助けて欲しいといえる力
-------	--

キーワードは「チャレンジ」です。失敗を恐れずに一歩踏み込んでいろんなことにチャレンジして周りをどんどん巻き込んで行ってください。人は経験により考え、経験により成長していきます。人生に無駄はありません。教育にも無駄なことはありません。

授業はもちろんですが、掃除の時間も給食の時間も、すべてが教育の場です。

子ども達と一緒にチャレンジし続けてくださいね。

ブロック紹介**第4ブロック理事 築山 勉**

第4ブロックは、松山市の西部に位置する三津浜小・宮前小・高浜小・興居島小・中島小・三津浜中・高浜中・興居島中・中島中の合計9小中学校で構成されています。

昨年度第4ブロックでは、初めてグランドゴルフを実施しました。会員の皆さんの交流・親睦の場となることを願ったからです。

昨年とても好評だったので、今年度も8月の中旬に実施しました。校区単位での参加は難しいので、個人として参加してもらいました。

当日は、三津・大可賀公園に9時に集合していただき、開会式のあと練習時間を取り、その後2ゲームを実施しました。閉会式では、成績発表に続き、表彰も行いました。

参加者の書いた感想の一部を紹介します。

「真夏の大変暑い中でのグランドゴルフでしたので、大汗をかきながらのプレーでしたが、こちよいい気持ちで楽しむことができました。現職の先生方と我々OBとが交流することができる良い機会だと思います。」

「風のある晴れで、暑い中にもさわやかにグランドゴルフをすることができました。球が思うようにとばないところがおもしろかったです。ベテランの人は、上手にコースを読んでいて、さすがだなと思いました。また、やってみたくて思いました。」

「暑い中でしたが、支部長さんのお世話のおかげで、楽しくプレーすることができました。また、OBの先生方との交流を深めるよい機会でした。」

「私自身は、暑い中、いかに暑さに打ち勝ち、いかに暑さを楽しむか、挑戦するのは、好きです。でも、挑戦できない人が多いのが現実です。お世話になりました。」

「夏の強い日差しの中でしたが、とても心地よい汗をかき、OBの方々との楽しい交流ができました。」

「グランドゴルフのルールが簡単であったので、未経験の私も楽しくゲームをすることができました。来年もぜひ、多くのOBの方と交流したいです。」

今後とも、ブロック活動の充実に努めていきたいと思っています。

活動の様子**令和元年度の文化講座について****福利厚生部**

本年度は6つの文化講座を開講しています。会員の皆さんは、和やかな雰囲気の中で熱心に受講され、講座を楽しまれています。

●囲碁・将棋教室

第1土曜日の午後を開講しています。20名の会員が囲碁や将棋の腕を磨いています。年度末の囲碁将棋大会では、熱戦を繰り広げます。

●俳句交換会

12名の会員の俳句が事務局に集まり、毎月、交換句集を発行しています。吉田晃先生、近藤良郷先生のご指導を受けながら、句作を楽しんでいます。残念ながら、近藤良郷先生が10月15日にご逝去されました。長年に渡りご指導ありがとうございました。

●ヨガ教室

第2土曜日の午後を開講しています。16名の会員が、脇坂恭子先生のご指導でヨガに親しんでいます。

●川柳教室

第3水曜日の午後を開講しています。13名の会員が、栗田忠士先生のご指導で川柳作りに励んでいます。

●詩吟教室

月2回月曜日の午前中を開講しています。17名の会員が、全国大会で優勝された伊賀上鋒山先生のご指導で活動しています。

○プログラミング教室

月2回土曜日の午前中を開講しています。小学校新学習指導要領で、プログラミング教育が必修となることを受け、現職を対象に試行的に開講しています。9名の会員が畑中靖祥先生のご指導で研修しています。

ご入会を希望される方、興味をお持ちの方は、市教育会事務局までご連絡ください。なお、プログラミング教室以外の講座では、現職会員が少ない状況です。現職会員のニーズに合った講座の開設も、検討していきたいと思っています。